

至昭和十九年九月五日厦門方面特別根據地隊戰時日誌

一經 過

(1) 敵 情

(一) 福 建 省 一 般 (別 圖 第 一 參 照)

(1) 六平洋戰局ノ通進は温州方面我作戦ノ進展ニ關聯福建事情勢又緊迫化スルヤ我ノ福建進攻必至ト見タル蔣介石ハ省内第五十五集團軍及蔣直系ノ第七軍ヲ統合シ福建戰時最高指揮部ヲ創設シ第七軍長陳孔達ヲ總指揮ニ李覺ヲ副指揮ニ夫々起用シ外顧問部ヲ併設顧問祝同及李默庵等ニ米人ヲ顧問トシ緊急時ニ於ケル作戰指揮ノ迅速化ニ備ヘ第五戰區總司令部ノ隸下ニ屬セシハ、斯クシテ福建抗戰準備ハ異常ノ緊張裡ニ經過セルモ、如ク福州方面防備ニ當ル第七師長兼閩東警備司令タル李良榮ハ兵力三千及保安隊縱隊千余名ヲ長樂縣ノ沿海ニ駐防セシメ第六十三師(八十三師トモ云ハル)ノ兵力約二千名ヲ連江縣海岸地區ニ配備シ連繫防備ニ當ラシメ我ノ進攻阻止ヲ圖リ殊ニ閩江筋ノ防備補強ニ大量ナリト一方四維源縣ニ駐屯セル第六十三師ノ中二個團ハ第三戰區司令部ノ指令

依リ福州方面ニ移動セリト、

(2) 米國ノ東亞派遣軍ハ八月中旬重慶ニ到着其ノ兵力約三萬ト称セシレ同
軍ヲ七聯隊ニ編成ノ上其ノ内ノ第七聯隊兵力約三千ハ八月下旬福建
三省指輝部ヲ建既ニ設置スルト共ニ同聯隊ヲ五縱隊ニ編成ノ上建既
古田南平福州漳州各地ニ分駐セシムルコトニ決定其ノ第五縱隊七百名
八漳州ニ到着漳州方面防備ノ第一師ヲ支援對日行動ニ移ラント
スル氣配アリタルモ本月上旬龍岩方面ニ北上セリト、

(三) 廈門ノ鼓浪嶼對岸地區(別圖第三參照)

(1) 對岸地區ハ依然トシテ第一師及龍溪保安隊駐防シ其ノ動向我ニ積
極的ナルモノナク第三戰區司令部ニテハ第一師ノ陣容強化ヲ圖リコノ
程英國陸軍少佐「トニー・フアサー」ナルモノヲ顧問ニ任用シ只管防備ニ汲々
タルモノアリ本月十六日より水上警察隊ノ駐防ヲ増加シ漳州石碼一帯
沿海ノ水上警戒ヲ嚴ニシツ、アリ殊ニ廈門ヘノ密渡航、交通船ノ取締ハ
嚴重ヲ極ムルト共ニ廈門ノ情報船々員ヲ利用シ廈門ニ於ケル軍事經
済、政治ノ情報蒐集ニ急ナリト、一方海滄沿岸ニ戰車壕ヲ構掘
タ本月三十日第一師司令部ハ兵力一團ヲ紅東橋一帯ニ駐防セシメ
同時ニ三叉河々口ニ機雷(數不明)ヲ敷設セリト、

(2) 本月ニ於ケル米軍關係情報概テ次ノ通り

(一) 米國京東派遣軍第七聯隊第五縱隊ハ本月十日頃龍岩ニ移動シ閩西
一帶ノ警備ニ當リタリト

(二) 最近對岸集美方面ニ主トシテ午後七時頃同安方面ヨリ軍用自動車ニ
テ十數名ノ米軍人未リ早朝再ビ同安ニ復歸スル事ト毎日ニシテ之等米
軍人ハ拳銃携帶ノ輕装ナレモ軍用自動車ニ輕機二挺ノ備ヘアリト

(三) 川石島對岸地區(別圖以テ參照)

本月ニ於ケル對岸地區ニ長門 瑠頭及尉斗島 黃岐島方面敵艦備狀況ハ
畧前月ト大ニ差ナキモノ如ク其ノ動向ニ何等積極的ナルモノナク 福建情勢
就中福州方面ノ情勢緊迫化ト共ニ第ハ師部隊ノ福州周辺ノ防備強化ガ
圖ラレ一項記述ノ如ク同部隊ノ對岸地區ハ集結アリ又去ル八月二十四日
福州海防司令 胡澤民ハ參謀及米人三名ヲ帶同馬尾方面ヲ視察馬尾艦
砲壘ヲ構築スルトニ決定抗戰準備ヲ急ギツアリタルモノ本月二十七日我艦
號E演習ニ依ル連江方面陸軍部隊ノ上陸進攻ヲ見ルル對岸一帶ノ
敵ハ春ニ福州方面ニ退却ヲ開始シ 之ト共ニ馬尾海軍陸戰隊モ同
様進退セルモノ如シ

(四) 在支米空軍及敵潜水艦

① 在支米空軍

(我大陸作戰ノ進展ヨリ桂林ノ危機ヲ覺リタル上在支米空軍ハ漸次成都
其ノ他内地基地ニ後退シツトB29型大型機ヲ主体トスル兵力ノ補強整備ニ在
本シシ太平洋方面ノ機動部隊ニ呼應シテ長驅内地各湾方面へノ出撃
企圖濃厚アリ又福建省方面ニ對スル關心愈々深キヲ加ヘソアリテ在支
米第廿航空隊ハ建既飛行場ヲB29型ノ前進基地ニ選定シ九月初旬ヨ
リ工程三月ノ豫定ニテ數十名ノ米共技術員技師工員約百名ヲ以テ
拡張工事ニ着手セリト

本期間厦門島方面ニ對スル出撃又頻繁ニシテ大型機ニ依ル夜間未襲
六面戰鬥機贛州ヲ中心トスル遂川ノ高雄及長汀等ノ各基地ヨリ飛進
スルモノト推定)等依ル未襲四回延機數十機ヲ算シタル外不明爆
音ノ聴取十五回ニ及ベリ

② 福建省内敵空軍関係情報概テ次ノ通

① 在支米空軍ハ華南空軍ノ勢力擴張ニ為惠安縣福山腰ニ九月
下旬ヨリ大約五千名ヲ以テ飛行場建設中ナリト

② 漳州ニ臨時基地建設中ニシテ該地ハ旧橋頭ヨリ西校場ニ至ル廣大ナル地
域ニシテ現在一萬餘人ノ人夫ヲ督勵シニケ月内ニ完成ヲ見ルベク且三十

機格納可能格納陣ヲモ建築ノ豫定ナリト

③廈門對岸南大武山頂靈塔ニ最近晝夜ヲ問ハズ武装セル米國軍人十
数名駐在シ長汀龍岩漳州飛行場ニ通ズル地下電話線工事ヲ進
メツアリト 尚山頂ヨリ約一町南シタル山陰ニ偽装ヲ施セル米國將校
兵舎アリト

④廈門對岸東翼劉五店集美ニ廈門鼓浪嶼軍事施設爆
撃ノ指標ト支目的ヲ以テ飛行機誘導電台建設中ナリト

⑤長汀飛行場ハ廣東廣西ヨリ雲南ニ至ル迄區空軍補給前進基
地トシテ重要視ナレ最近重慶ヨリ爆撃機約四十機及塔索員多數
同地ニ到着セリト

(二) 敵潜水艦

本期間我担任海面ニ於ケル敵潜水艦ノ出現ハ皆無ナリト雖ニ台湾海峡(台湾
寄り)ニ台湾周辺ニ於ケル出没ハ漸ク多キヲ算シツアリテ台湾ニ對スル敵
ノ動向愈々積極的ナルアリ九月八日泉州沖ニ米潜水艦一隻浮上シ附近
ニ在リタル漁船ヲ呼び寄せ水兵ヲシキモノ六名移乗山岳武海岸ニ上陸セリト
ノ情報アリハ眞偽不明)

(三) 我が軍ノ状況

0717

(一) 任務

- (1) 敵艦艇、航空機等、沿岸及島嶼利用阻止
 - (2) 所管海面ニ於ケル海上交通保護（航路標識、確保、非占領地域ヨリノ重要物資獲得ノ援護ヲ含ム）
 - (3) 敵國艦艇ニ準スベキ中立國船舶ノ拿捕抑留
 - (4) 非占領地域ヨリノ軍需物資補給ノ遮断
 - (5) 廈門港ノ防備、廈門、鼓浪嶼、金門、小金門、漳州各島ノ確保
- (二) 編制（別紙第一参照）
- (1) 第二遣支艦隊 廈門方面特別根據地隊
廈門方面兵力部署ニ依リ部隊ヲ分チ主隊（廈門島部隊）島外派遣隊（金門島、川石島）監視部隊（甲監視部隊、乙監視部隊）飛行機隊トス。
 - (2) 十月一日機密廈門方面部隊命令第四九號ヲ以テ廈門方面部隊兵力部署中次ノ通り改ム。
監視部隊甲監視部隊兵力欄ニ「警備艇第十號（一九八二九）」「大角丸（一九一三八）」ヲ追加ス。
 - (3) 以即號五演習部隊ヲ次ノ通り編成ス。

0718

ノ遮断等ニ任ゼン

(3) 廈門部隊中ノ水上警備科ヲ以テ廈門港附近海面ノ警戒及港務一般任ゼン

(4) 飛行機隊ハ所要ノ應ジ海上交通保護及對沿岸敵攻撃ヲ禁敵軍事基地ノ爆撃ニ當ラン

(5) 南澎高島燈臺(警戒兵六名)青嶼燈台(警戒兵五名)東旋島燈台

(警戒兵四名)及閩南警備軍若干(烏坵燈台ハ警戒兵六名及

福建福平救國軍若干)ニ警戒兵ヲ派遣シ警備並ニ防空警報遠望

ヲシム其ノ他ノ燈台ハ張逸舟總司令ノ福建和平救國軍ヲ以テ守備セシ

メツアリ(別圖 第六卷 照)

但シ大担嶼燈台ハ閩南警備軍ヲ以テ守備セシメツアリ

(ハ) 作 戦 指 導

(一) 節 號 E 演 習 (詳細ハ節 號 E 演 習 戦 斗 詳 報 參 照)

當隊陸上警備科、水上警備科、内務科、通信科、医務科、主計科

科ノ一部兵力並ニ水雷艇、初雁ヲ加ヘ、演習部隊ヲ編制シ二十六日行動

開始シ當隊司令官初雁ヲ率中ニ七月川石島ニ進出、同日人員兵器器材

其他揚陸完了、尔後陸軍部隊ニ協力演習ハ極多順調ニ進涉中ナリ

(ニ) 般 警 備

- (1) 十六日、印號E演習開始、當隊司令官初雁寺艇二十一日川石島に進出
- (2) 十六日、第三遣支艦隊司令官末厦同日附將旗ヲ厦根ニ移揚セラル
- (3) 敵機末襲狀況
- (一) 一日、五〇P型一機、高度約六千米ニ厦門島鼓浪嶼ニ末襲偵察ヲ試ミタル上西方ニ去ル
- (二) 六日、三三型五機、種不詳、大型爆撃機ニ機高度約四千米ニ鼓浪嶼上空ヲ厦門ニ末襲、東方ニ去ル
- (三) 七日、三三型一機、高度約六〇〇〇米ニ厦門ニ末襲、偵察ヲ試ミタル上西方ニ去ル
- (四) 十日、五〇B24型(推定)一機、湾口ヨリ高度約三〇〇〇米ニ鼓浪嶼西方ヲ経テ牛頭山方向ヨリ高崎飛行場ニ末襲、〇五七ノ南東滑走路ニ六個、滑走路外ニ五個、飛行場外ニ二個、爆弾投下ヲ行ヒタル後、五〇八金門島方向ニ向ヒタルモ、五〇〇高度ヲ下ゲテ、再度侵襲司令官部上空ヲ経テ南西方ニ去リタリ
- 爆撃ニ依リ、南東滑走路一時使用不能トナラレシモ、飛行機ヲ救着ニ支障ナシ
- (五) 十一日、五〇B24型(推定)一機、湾口ヨリ鼓浪嶼ニ末襲、同嶼

0721

南西海面ニ約二米間隔ニ三個爆彈投下ヲ行ヒ。五四七南ノ大武
山方向ニ去ル。被害ナシ。

一三三P38型一機金門島方向ヨリ高度約六〇〇米ニテ廈門ニ来
襲偵察ヲ試シ上二一三五對岸ノ亞細亞ヲシテ方向ニ飛去セリ

(六)一三三P38型一機高輝糸歸航中ノ福丸八日二五〇北緯ニ度四分東
經ニ八度四分ニ於テ敵機一機ノ攻撃(至近彈)ヲ受テ船体損傷

應急修理ヲ爲十四日馬公ニ入港修理ニ十六日一〇二馬公齊歸航
中一五四六ヨリ一八〇頃迄敵B25型一機ヲシテノ觸接ヲ受テタルモ異常

ヲクニ三〇三廈門ニ歸投セリ
(七)二十四日二二三B24型(推定)一機西方ヨリ金門島ニ来襲古寧頭

突端(北山)ニ二架海中ニ數架爆彈投下。二四五小金門島上
空ヲ經テ二四八廈門ニ来襲鼓浪嶼南西海岸及海中ニ計五架

爆彈投下。同與上空ヲ旋回シ、西方ニ飛去セリ
被害 鼓浪嶼民家一半壊 死傷者ナシ

(八)二十五日二二三B24型(推定)一機、灣口ヨリ廈門ニ来襲。二四水偵基地
蜂巢山陣地間ヲ音爆。二四鼓浪嶼上空ヲ小旋廻シ、北西方

ニ遁ルセリ
投下爆彈十三架 民家倒壊數軒、市民死傷十數名

0722

(九)二十七日三四。機種不詳大型機一機五通上空ヨリ厦門市上空ニ未襲セルモ投弾
ヲ鼓浪嶼ニ端ヲ經テ南西方ニ飛去ス。

(一〇)二十七日九。敵戦斗機一機馬祖島ニ未襲同島ニ分散在泊中ノ陸軍舟
艇其他ヲ銃撃シ福州方面ニ遁走セリ。

被害 陸兵戦死一、負傷數名ヲ出セリ。

(一一)二十七日三四。敵P40型(増槽付)戦斗機五機厦門對岸嵩嶺上空ヨリ火
燒島上空ヲ經テ高崎飛行場ニ侵襲ニ機完編隊トナリ飛行場ヲ旋回機
銃掃射ヲ行リ、コロリ先味方零戦三機直ニ機械ヲ發動シタルモ敵銃撃ニ
逢ヒ被弾炎上シ一機音陸交戦敵追撃ニ移リタリ。敵四機ハ我々及撃テ依リ三五
ニ針路ヲ東方ニ變ヘ五通未達落急降下銃撃ヲ加ハタル後厦門島東岸ヲ南ト一三五
水偵基地ニ侵入及復銃撃ヲ行ヒ我々及撃テ依リ東海岸ヲ北上再ビ高崎飛行場
ニ侵入劉五店方向ヨリ遁入シ米レル一機ト合シ五機トナルヤ飛行場ヲ旋回後一四・五高
度約三〇〇米ニテ牛頭山上空ヲ經テ西方ニ遁走セリ。

戦果 ナシ

損害 零戦二機炎上塔索員戦死一、負傷二、其他被銃撃アリタルモ
異状ナシ

(四) 戒 克 臨 検

0723

九月中水上警備科(依ル式克(漁船)臨検次ノ通

大型式克九四、中型式克二六四、小型式克八二八計二一八六

(三) 教 育 訓 練

(1) 艦隊教育方針ニ基キ極メテ順調ニ進捗シツアリ近時敵機ノ来襲頻繁ナルニ鑑ミ特ニ對空戰鬥教練ニ重点ヲ置キ常時對空警戒配置ニ就カンメ機宜訓練ヲ實施 對空戰鬥ニ萬全ヲ期スルト共ニ太平洋方面敵機動部隊ノ蠢動 福建情勢ノ緊迫化 對處シ關係各邦ノ陸戰教練ノ實施ニ努メ尚月八回、訓練日ヲ定メ夜間訓練ヲ勵行スル外武技傳技ヲ行ヒ技倆ノ向上 体力ノ練成 士氣ノ振作ヲ圖リツアリ

(2) 第二國民兵基礎教育

七月十日入隊ノ第二國民兵(昭和十九年四月十五日佐團参着ノ機關參)ニ名ニ對スル基礎教育ハ全月十七日ヨリ開始以來順調ニ経過シ本月十六日ヲ以テ終了ノ概テ前期ノ目的ヲ達成セリ

(3) 民 軍 特 別 教 育

本月九月ヲ以テ終了セリ

(四) 施 設

(1) 十言司令部 廳舎ヨリ防空指揮所(警電室、電話交換室ヲ含ム)工事開始、目下銳意完成ニ努メツアリ、

厦門特根 19-9

九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
						香	厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦
高	門						厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦
							厦	厦	厦

(二) 附屬艦艇航行動

(3) 雲頂山頂電探裝備諸工事順調ニ進捗中ナリ

裝備換入

(2) 二十七日司令部高角砲一門及十三耗聯裝機銃一基ヲ高崎雅行場ニ又鼓浪與日光巖陣地ニテ十三耗單裝機銃一基ヲ司令部ニ奉

0725

厦門舞臺 19-9

二六	二五	二四	二三	三二	三一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

中海航	港
-----	---

門

公	馬	雄
---	---	---

川	門	厦	島	石
---	---	---	---	---

門

門

門

0726

同	同	隊	隊	隊	同	同	隊	隊	司令官	職	主任	二人員、現狀	三七	二八	二九	三〇
水雷補給科補給科附	衛生兵副司令	第三分隊長	第三分隊長	第三分隊長	水雷補給科長	水雷補給科長	水雷補給科長	水雷補給科長	通信科長	通信科長	通信科長	通信科長	明	厦	明	明
同	少尉	中尉	同	同	同	大尉	少佐	中佐	中將	官	氏	(九月一日現在)	島	石川	明	明
宮越林	八木福次郎	玉井義盛	河合米三郎	森秀一	田中善次	石橋熊八郎	沼井昭	関勅滋	原田清一	氏	石川	島	明	島	石川	石川
										口	記		島	石川	島	石川
										事						

0727

隊	分隊長	同	隊	兼針隊長	同	同	同	隊	兼針隊長	同	同	同	同	同	同	同	隊	兼針隊長	同
附	第五分隊長	第八分隊長	附	第八分隊長	第七分隊長	第七分隊長	第七分隊長	附	第七分隊長	第一分隊長	第一分隊長	第一分隊長	第一分隊長	第一分隊長	第一分隊長	第一分隊長	附	第一分隊長	第一分隊長
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士
嵐山丸乗組																			
機曹長	大尉	主曹長	同	主大尉	醫少尉	醫大尉	醫大尉	醫少尉	醫少尉	工曹長	同	同	機曹長	少尉	中尉	少佐			
八尾恒次	駒林力	吉澤春雄	西尾善吉郎	岩間龍夫	池田武雄	桑原佐武郎	桑原佐武郎	池田滿次郎	池田滿次郎	上野茂	小島吉雄	園部俊八郎	大前秀文	芳賀庚雄	田山四郎	有馬啓五郎			

0729

隊附		第五隊士		嵐山丸乗組		兵曹長		山田金治	
(四)下士官兵及其他ノ員數(九月一日現在)									
區分	兵科	整備科	機關科	工作科	看護科	主計科	軍屬	計	記
厦根附	七四三	一七六	一三三	一五	五八	七九	一八四		
遷移參附	一〇	四	〇	〇	五八	七二			
計	七五三	一八〇	一三三	一五	一一三	一五六			
(三)總員數(九月一日現在)									
種別	士官	特准	下士官	兵	其他	計			
記	一六	二八	三三	六二	七	一一九			
(二)九月申興動									
前職	新補職	補職年月日	官	氏名	記	事			
予備學生	厦根附	一九、七、一〇	少尉	土屋芳郎	九月十六着任				
			同	生澤淳三郎					
			同	如藤行雄					
			同	西村次郎					
			同	松本勝輔					
厦根附	佐鎮附	一九、七、三	兵曹長	河村寅一	九月六日退隊				

0730

昭和九年十一月三十日 廈門方面特別根據地隊戰時日誌

經過

(一)敵情

(一)福建省一般(別圖第一参照)

省内ニ於ケル重慶正規軍ノ配備ハ畧前月全標ニシテ依然トシテ抗
戰準備ニ汲々タルモト推測セラル、モ本月福州周邊ニ於ケル第八
師部隊ノ福州ヲ奪還ヲ企圖スル若干ノ積極的ニ動向及廈門對
岸ノ第七師ノ防備強化ノ狂奔振リノ外顯著ナル動向ハ認マラズ
沿岸地區一帯ノ配備ハ概シテ保安團遊撃隊等ヲ配シ正規
軍ハ粵地ニ據ル傾向アリ、之ニ伴ヒ遊撃隊其他抗戰團體ノ急
速組織、米國式軍事訓練ノ實施等漸増スルト共ニ近時米英
軍事關係者ニシテ正規軍ニ入り作戰指導等ノ衝ニ當リツ、
アル事例散見セラル、ニ至リ、其ノ抗戰内容充實ニ急ギツ、
如シ
(二)廈門、鼓浪嶼、金門島對岸地區(別圖第二参照)
(1)廈門方面ヨリスル我ノ進攻ヲ危惧スル在漳州ノ第七師ハ縣
保安隊、自警團ヲ指導、土民ヲ動員シテ海澄、漳浦、同

0731

安、各縣沿岸ニ戰車壕、構築或ハ集美、後田、下尾、丙州、方面ニ緝私隊ノ沿岸哨海船、増配備等、沿岸一帯ニ對スル防備強化ハ本月ニ更ニ拍車ヲカケタルノ感アリ、此等ニ關聯シテ第一、七師部隊ノ沿岸地區ヘ、往來活潑ナルモノアリ。

(2) 十月下旬龍岩軍事最高指揮部ハ國民兵團ハ優秀兵七百餘名ヲ漳州ニ派遣シ漳州警備司令部(司令胡澤民)ノ指揮下ニ入ラシメタリト、而シテ該兵團ハ米團式ノ武裝ヲ具備シ鉄條網、銅線、銅板等多量、軍事資材ヲ運ビタリト。

(三) 川石島及馬尾周邊地區

我陸軍部隊ノ福州進攻ニ依リ水口方面ニ遁入セル第八師ハ此程司令部ヲ大湖鎮(福州西北ニ五軒)ニ設置スルト共ニ兵力ヲ集中シテ福州奪還ヲ企圖シ一方閩江流域白沙ニ逃避セル閩江江防司令部モ又之ニ呼應シ最近柑橋附近ニ除々積極的蠢動ヲ示スニ至リ我陸軍部隊ハ之ヲ邊擊スル方面ニ進出中ナリ。

(四) 在支米空軍及敵潜水艦

(1) 在支米空軍

今次桂林、南寧、柳州等ノ失陥ニ伴ヒ敵米ガ大陸ヨリ

スル對日及攻據点ト特ニタル西南支那ノ價值實質的ニ崩潰スル
 ヤ在支米空軍ハ腹地ニ道入貴州方面基地ニ據リ陣容一新ニ狂
 奔シツアルモ本月以テ機ニ依ル厦門島方面未襲六回大型
 機ニ依ル未襲二回延機數十七機ヲ算シタル外不明爆音ノ
 聽取ニ十七回(前進部隊ノ含ム)ニシテ距離的ニ制約サレ台
 灣方面支那沿海へ出撃漸次低調ヲ示スモノアリ
 但シ最近遂贛地區基地群ヲ再整備シ駐留機數又漸増
 シツアルハ警戒ヲ要ス

福建省ニ於ケル敵空軍關係情報(確度不詳)概テ次ノ通
 (1)十月中旬永春仙遊莆田德化四縣政府ハ人夫數千名ヲ
 徵集シ永春飛行場擴張工事(永春仙遊縣内迄ニ料ノ拉
 張)ニ着手シ十月中旬完成ノ豫定ニシテ全飛行場ハ在支米空
 軍ノ前進基地ニ提供スルモノナリト

(2)漳浦縣内赤湖社ト大帽山ノ中間ニ米人技師指導ノ下ニ飛
 行場新設中ナリト

(3)龍岩飛行場ハ最近ニ使用サレ居ル模様ニシテ駐屯機數ハB24型
 五機P38型九機P51型五機ノ外重慶空軍二十機ナリト

0733

(2) 敵潜水艦

本期間我担任海面ニ於ケル敵潜水艦出現皆無ナリシモ依然トシテ台湾周邊ニ出没スル一方比島方面戰局ノ激化ニ伴ヒ呂宋海峡方面ヘノ活動愈々活潑ナルモノアリ。

最近ニ於ケル福建省沿岸ノ敵潜水艦係情報次ノ通(確度不詳)

(1) 十月初旬漳浦縣六鰲魚沖ニ潜水艦一隻浮上シ附近ニアリタル漁船ヨリ飲料水ヲ購入シ潜没セリト

(2) 十月二十日米人「ギリンガー」ハ米英人技師二名及護衛兵十二名ヲ帶同シ漳州ヨリ惠安ヲ經テ前營ニ到着 予メ惠安縣

政府ニテ準備シヨリタル我克一隻ニ生糧品飲料水ヲ積載シ今日二四。空地帯 付ノ英ニ至リ二十三日。九。附近ニ浮上セル潜水艦

ニ隻ニ接近シ之ニ前記生糧品飲料水ヲ補給セリト

而シテ補給ニ關スル潜水艦ノ通信連絡ハ漳州西門外芝山ノ元第十九路軍司令部家屋内ニシテ同盟隊二十四組并事務處

ノ無電名ニヨルモノニシテ 今組長 英人「リカード」ニ副組長タル

「ギリンガー」ハ米英ノ諜報謀略工作ニ任ジ基督教會ノ傳道網ヲ利用シテ情報蒐集ヲナシガルモノナリト

(四) 我が軍ノ状況

(一) 任務

(1) 敵艦艇、航空機等ノ沿岸及島嶼利用阻止ニ敵侵襲阻止
 (2) 所管海面ヲ於ケル海上交通保護(航路標識ノ確保並ニ非占領地域ヨリノ重要物資獲得ノ援護ヲ含ム)

(3) 敵國艦艇之津ズベキ中立國船舶ノ拿捕抑留

(4) 非占領地域ノ軍事需物資補給ノ遮断

(5) 廈門港ノ防備、廈門、鼓浪嶼、金門、小金門、馬尾及川石島

福州間、閩江水路ノ確保

(二) 編制

第一遣支艦隊 廈門方面特別根據地隊

廈門方面兵力部署ヨリ部隊ヲ分チ主隊(廈門地區部隊)

前進部隊(金門地區部隊) 離島地區部隊(飛行機隊トス)

(三) 配備 (別紙第一、第二、別圖第三、第四、第五参照)

(1) 主隊ノ大部ヲ以テ廈門島、鼓浪嶼ニ前進部隊ノ大部ヲ以テ金

門島、小金門島、海軍金門島派遣隊(予小隊)陸軍丙支隊ニ又

別ニ川石島(予小隊)馬尾(予小隊)ヲ配シ馬尾及川石島福州間

0735

閩江水路ノ確保ニ防備、敵侵襲阻止撃攘ニ當ラシム

(2) 主隊各船艇及前進部隊派遣船艇ヲシテ敵艦艇航空機等ノ沿岸片及島嶼利用阻止、敵侵襲阻止撃攘所管海面ニ於ケル海上交通保護及非占領地域ノ軍需物資補給、遮断等ニ任ゼシム

(3) 厦門地區部隊中ノ水上警備隊ヲ以テ厦門島及金門島附近水域ノ警備及港務一般ニ任ゼシム

(4) 前進部隊中離島地區部隊ノ一部ヲ以テ南澎高島灯台(准士官一名及砲測器見張警戒兵十七名)東嶼島灯台(見張警戒兵四名及南警備軍若干)烏坵嶼灯台(見張警戒兵六名及福建和平救國軍若干)牛山島灯台(見張警戒兵四名)馬祖島灯台(見張警戒兵六名及福建和平救國軍總司令部)東引島灯台(見張警戒兵四名及福建和平救國軍若干)青嶼燈台(見張警戒兵五名)ノ確保ニ島嶼ノ見張警戒防空器設置、砲測器設置、南澎高島見張所ハ十一月十四日砲探設置、砲測器設置ニ當ラシム、其ノ他、灯台ハ張逸舟ノ率テ福建和平救國軍ヲシテ守備セシメツ、アリ(別圖第六参照)

但シ大担嶼灯台ハ閩南警備軍ヲシテ守備セシメツ、アリ

0736

0670

(5) 飛行機隊ハ所要ニ應ジ海上交通保護及對消索敵攻撃ヲ主ニ敵軍
軍基地ノ爆撃ヲニ當ラシム
四電探設置

十一月十四日南澎島見張所ニ電探設置完了真測定開始ス
〔准士官一名下士官六(電測員)十三名派遣ス〕

(ハ) 作戦指導

(イ) 對空戦斗

(1) 十一月三日一七四。P39型二機高度約五〇〇米ヲ金門島方向ヨリ高崎
飛行場ニ来襲本屯モ空戦及地上砲火ヲ以テ一七四ニ北西方ニ撃退セリ
十四聯空ヨリ派遣中ノ零戦二機ハ廈門在泊ノ商船斗山丸ノ上空
直衛哨戒終了シ降着姿勢勢ニ在リテ敵機ト交戦被弾海中ニ
自爆搭乗員一名ハ落下傘ヲテ海上ニ降下救助一名(伊藤一雅曹)
戦死ス

(2) 十一月十日二五八B29型一機高度約五〇〇米ヲ東方ヨリ廈門ニ来襲
司令部地區上空航過偵察シ北方ニ飛去ス

(3) 十一月十三日一三五P38型一機高度八〇〇〇米ヲ東方ヨリ来襲高崎雅

0737

行場上空ヲ経テ司令部上空ニ飛来。偵察後及轉東方ニ飛去ス。

(4) 十月十四日ニ九B29型一機高度約八〇〇米ニ南方ヨリ厦門ニ来襲偵察高崎飛行場上空ヲ経テ一三三四北西方ニ飛去ス。

(5) 十月十六日一七三四P51型四機超低空ニ北方ヨリ厦門ニ来襲我々が撃下炸彈一七五三北西方ニ追ヒ去ス。

被下炸彈五發(内四發海上。一發司令部地区)被 害

厦門見張所ノ一式一型改ニ電探ハ敵銃撃ヲ被リ使用不能。中國人三名輕傷

(6) 十月二十日一三三六P38型一機高度約八〇〇米ニ西方ヨリ厦門ニ来襲偵察後一三四六南方ニ飛去ス。

今日一五三三P40型四機高度約五十米ニ對岸大盤角方向ヨリ厦門ニ来襲在泊船艇厦門見張所高崎飛行場ニ銃爆撃ヲ行ヒタル我々が及撃下炸彈ニ依リ一五四北西方ニ追ヒ去リ。

被下炸彈八發(全部厦門鼓水道)ニ依リ我々が及撃下炸彈ニ依リ一五四北西方ニ追ヒ去リ。

沈没 厦門見張所電探銃撃ヲ被リ損傷増大。警備船大角丸船員五近彈ニ依リ中等傷一名中國人ノ死

0738

傷口名

(四)十一月二十二日一二三P40型三機高度約五〇米ヲ對岸亞細亞ヲ
シク方ヨリ厦門ニ來襲司令部地區及高崎飛行場ニ油脂性
燒夷彈一多數ヲ投下我ガ及撃ニ依リ一四〇小倉島方向ニ道
走セリ

投下燒夷彈一〇一發司令部一四十六發水上警備隊五十
五發一高崎飛行場約一〇發

被 害

燒夷彈ニ依リ兵一名輕傷 船員一名輕傷

(二)官房機密第一二六一九番電ニ依リ訓令作業

十一月五日南支那部隊電令第四二〇號ニ基キ十二日機密厦門方面
部隊命令第五七號ヲ以テ左記ノ通 作業隊ヲ編成十月下旬
烏垣莫東方海面(概位北緯二五度〇六分東經二九度一五分)ニ
撃沈セ敵潛艇TAN Gノ状況調査ニ暗號書表等敵機
密ノ書類ヲ移收ニ任ゼシメタリ
作業隊八十一月十四日厦門ヲ進(十四日九五〇名振丸、ト號春日丸
厦門發)十五一二三〇取逐繼、票(厦門發)十六日作業開始シ連

0739

日ノ荒天ヲ冒シテ作業ヲ實施ニ十八日五。敵潜水艦前部ヲ拘捉
潜水艦沈没状況調査ニ成功引續キ作業實施中

區	訓令		母艦		編	紅	指揮官任	務	
	母艦		栗						
隊	潜水作業班		特別深海作業班		司令	中	司	根	
	救護班		春日丸 岩根丸						
記	高所要ニ應ジ中堅或ハ先ニ隻ヲ潜水作業班ニ附屬ス		夏根潜水作業班		官		令		
	衛生兵曹(兵)		助班(白。名)		少		中		
救護班		桑原匡大尉		山田少尉		庄司中尉		潜水艦内調査機密書類揚収	
救護班		救護班		潜水作業援助		潜水艦内調査機密書類揚収		潜水艦内調査機密書類揚収	

(三) 對潜哨戒
 (1) 潜水艇ハハ。高所要ニ應ジ中堅或ハ先ニ隻ヲ潜水作業班ニ附屬ス
 岸對潜哨戒ヲ實施シ、一、二、三。廈門着。敵潜水艦ヲ認メ、接

0680

0740

今日二四、水偵四号機ハ厦門基地発進厦門淡水閘對潜哨
戒實施一六〇淡水着航路上敵潜ヲ認メズ

(2) 十月十九日水偵四號機ハ四〇淡水着航路上敵潜ヲ認メズ
哨戒ヲ實施一五二五厦門ニ歸投ス航路上敵潜ヲ認メズ

(3) 十月二十四日〇九〇水偵四號機基地発進南日水道ニ假泊中、
七八二形同附近海面(北椏島南日島間)ノ對潜哨戒茲ニ烏
拉與附近ニ於ケル撃沈敵潜調査作業狀ヲ復察ヲ實施
一〇〇歸投ス哨戒海面敵潜ヲ認メズ

(4) 十月二十五日〇七三〇水偵四号機基地発進シ馬公ニ向テ南日水道
ノ七八一船同ノ前路哨戒(北椏島烏拉與間)ヲ實施シ一〇〇
歸投ス哨戒海面異狀ヲ認メズ

(四) 機雷處分

十月十四日川石島派遣隊ハ閩江河口野鴨石上端及黃歧島
言九高地ノ線上ニ敷設機雷(全面牡蛎附着)九個ヲ確認ス
馬尾水路警備隊ハ右機雷精査ニ任ジ十一月十九日野鴨石附
近十三個梅花附近三個ノ機雷ヲ拘捉シ一三三〇之ヲ完全ニ處分セリ
(五) 戒克臨檢

0741

本期間水上警備隊ニ依ル我克(漁船)臨検数次ノ通

(六) 教育訓練

艦隊教育方針ニ基キ極メテ順調ニ進捗シツアリ。敵機未襲ニ対
處シテ特ニ對空戰鬥教練ニ重点ヲ置キ、常時對空警戒配
置ニ就カシメ機宜訓練ヲ實施。尚、近時比島方面四角ノ激化
ニ伴フ海上方面敵侵襲ニ對應スル防衛隊ヲ指導シ、軍民
一體ノ陸戰教練ノ實施ニ努メ、且月八回ノ訓練日、三月一四ノ
警備(邀撃)演習日ヲ定メ、夜間演練ヲ勵行スル外、武技
體技ヲ行ヒ以テ技術ノ向上、體力ノ鍊成、士氣ノ振作ヲ圖リツアリ。

(七) 施設

司令部、廳舎内防空指揮所、補強工事ハ本月十八日完了。即
日電信室移裝、通信開始。十九日電話交換室移裝、交換開始ス。
尚、飛行場掩體、戰車壕、砲陣地等ノ防備工事ハ、單、防衛
隊在留邦人、中國人一體トナリ之ガ促進ニ努メ着々強化シツ
アリ。

(二) 附屬艦船艇行動

厦門符根 19-11

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	日
														厦 丸山嵐
														厦 艇備 號十 第
														厦 號三 第
														厦 丸大橋
														厦 丸旗名
														厦 丸角大
														厦 七十 第 丸通 南
														厦 丸日 春 門 厦 島 門 金
														厦 丸寶 長 門 陸) 門
														厦 三十 第 丸國 海
														厦 一 第 丸幡 八 門 入) 門

0743

厦内特根 19-11

三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一
〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六

門

厦門閩揚子

門

門 台 灣 高 雄

鳥 丘 真 沖 特 別 作 業

門

港 沖

鳥 丘 真 沖 特 別 作 業

揚 修 理 中

門

厦門 揚子 閩

渠 修 理 中

6130

0744

昭和十九年十一月一日 廈門方面特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(1) 敵情

(一) 米軍

敵ノ比島方面進攻ト共ニ台湾及支那沿岸侵襲ノ氣運漸ク濃厚トナ
リツアリ米軍ハ既定計画ニ基キ機動部隊ヲ以テ支那沿岸ニ到着シ
B29ノ大量展開ニヨリ日本本土空襲ヲ企圖シアリテ支那沿岸上陸ノ
算大ナルモアリ

今春四月文化視察團ノ名目ト米々未省以來漸次潜入數増加シ八月米
軍部隊未省說散開スルニ至ルヤ其ノ動向活潑表面化シ沿岸一
帶ノ測量偵察ニ或ハ重慶正規軍ノ作戰指導ニ又飛行基
地新設其ノ他ノ指導監督等ニ積極ノ尖銳化シ本月ニ入リ漳州ヲ
中心トシテ廈門ノ鼓浪嶼金門方面ニ對スル寫真偵察頻繁ニシテ對岸
地區沿岸米軍部隊ヲシテ隱顯出沒スルニ至レリ

(二) 在支米軍及敵潜水艦

(1) 在支米空軍

0745

成都、昆明等ニ據リ、後方補給及態勢整備ヲ急ギツ、アリル在支米空軍ハ、ハ、イ、パン、ヨリスルヲ本上爆撃ニ相呼應シ、8月29日以テ大陸ニ於ケル我が占領地後方中樞兵站線ノ攪乱ヲ民心動搖、神經戰術ニ出テ表レリ。即チ滿州ニ對スル戰力源ノ爆撃、上海其ノ他大都市ニ對スル空ヨリノ攪乱行動等其ノ様相ハ漸ク本格化セリ。一方依然トシテ我海上海線破壞ノ妄動活發ニシテ遂ニ贛地區基地ノ駐留機増加シツ、アルモノ如シ。

本期間、厦門島方面ヘノ未爆九回(前進部隊ノ分ヲ含ム)不明爆音ノ聽取三十四回(前進部隊ノ分ヲ含ム)ニシテ前月ニ比シ其ノ出撃度漸減セリ。

本月福建省ニ於ケル敵空軍關係情報(確度不詳)概不次ノ通

(四)重慶軍政部ハ安溪ノ長架區方面ニ飛行基地新設ニ決定既ニ工事中心ナリト

- (五)漳州南門外ニ飛行場擴張中ニシテ一。七師所屬兵士之ヲ監督ニ當リ工事ハ壯下約一。〇名ヲ作業ニ從事シツ、ア、リトノ説モ確度小
- (六)長汀飛行場ハ擴張ニ中ニシテ毎日民工約三。〇名ヲ動員シ本月未迄ニ完成ノ予定ナリ工事指導ノ為重慶ヨリ技師及監工相當數表行

アリテ作業用具ハ率引核アラーニ三名ナリト。
(2) 敵潜水艦

本月我担任海面兵艦先敵潜水艦出現皆撃テ比高ニ繞ル戰局激化ニ伴ヒ呂
漢周辺及東方海面駐呂宋海峽へ出没者シテ増加シテアリ。

(三) 福建省一般(別圖第一參照)

福建情勢緊迫化シ日本軍閩南進攻ヲ危惧スル重慶軍當局ハ第一〇七
師其他ヲシテ沿海防備ニ當ラシムル外ニ程三戰區總司令部ノ
要請ヨリ更ニ第十師ヲ安徽省ヨリ入閩セシメ豫陽附近ニ配陣シ
福建防衛ヲ失陥地區ニ復要スル軍事の強化ヲ圖リ尚米軍福建上
陸ヲ期待シシニ呼應セシトシ防禦作戰及軍民合作ノ強化ニ努力シテアリ。
省内保安團ハ整備備徵兵米式訓練ノ實施並安ニ於ケル騰雲幹部訓
練班修了者ヲ東山雲霄方面ニ派遣スル等米軍上陸作戰ヲ有利ニ展開
セシメト近時真摯ナル動靜ヲ示シ来レリ。

更ニ第二十五集團軍近々入省セントノ情報ニ接シタリ。

(四) 厦門、鼓浪嶼、金門、馬尾地區(別圖第二參照)

日本軍次期作戰ガ漳州龍岩ヲ衝キ福東並首方ニ進撃セトノ予想ノ下敵
軍師ハ前月ニ引續漳州周辺一帯ニ各據防禦施設ヲ狂奔シテ應戰

0747

對策急速ニ進接シツアリモ、如ク殊ニ嵩與方面沿岸一帯ノ心規軍一増
配顯著トナリ防衛ヲ兼テ屢敷方面ノ流貨阻止ニ努力スル外沿海住區ニ對シ
テ指定區域ニ疎散ヲ強制シ之等ヲ以テ後方生產振充強化ニ資セントシ又壯
丁ニ徵集シ各部隊ニ補充ヲ圖ル等米人指導ノ下軍事的政治的措置積極
的ニ構シツアリ

- (1) 十月四日漳州ヨリ一七師特務營第二連(約二〇名)嵩與方面ニ未駐ス
- (2) 十月五日一七師部隊約一連角尾ニ未駐連部ヲ角尾ニ設ケ今所ヨリ兵力
一々排ヲ東與方面ニ配置セリト所持兵器八月盤式核銃(五十連發)二
挺各小銃一挺ヲ有スト
- (3) 十月下旬龍岩師區司令陳清煊ハ永安軍管司令部所屬各隊ニ
補充スルノ龍岩師管區壯丁(訓練終了者)五千名ヲ永安ニ送り
區々タリト

(四) 我カ軍ノ狀況

一 任務

- (1) 敵艦艇航空機等ノ沿岸外及島嶼利用阻止並ニ敵侵龍岩阻止
- (2) 所管沿岸ニ於ケル海上ノ交通保護(航路標識、確保並ニ非占領地場ヨリ重要物資
獲得ノ援護ヲ含ム)

- (3) 敵國艦之進出ニ對シテ中立國船舶ノ拿捕抑留
- (4) 非占領地域ノ軍需物資補給ノ遮断
- (5) 廈門港ノ防備、廈門ノ鼓浪嶼、金門、川石各島並ニ馬尾及川石島、福州間、閩江水路ノ確保

(二) 編制

第三連支艦隊 廈門方面特別根據地隊

廈門方面特別根據地隊ニ依リ部隊ヲ分チ主隊(廈門地區部隊)前進部隊(金門地區部隊、離島地區部隊)飛行機隊トス。

(三) 配備 (別紙第一、第二、別圖第三、第四、第五参照)

- (1) 主隊ノ大部ヲ以テ廈門島、鼓浪嶼ニ、前進部隊、大部ヲ以テ金門島、小金門島、海軍金門島派遣隊(一小隊)陸軍南支隊ニ、又別ニ川石島(一小隊)馬尾(一小隊)ヲ配シ川石島、福州間、閩江水路ノ確保並ニ防備、敵侵襲阻止撃撃ヲ當ラシム。
- (2) 主隊各船艇及前進部隊派遣船艇ヲ以テ敵艦艇航空機等ノ沿岸ノ及島嶼ヲ用限リ撃撃ヲ所管海面ニ於テル海ノ交通保護及非占領地域ノ軍需物資補給ノ遮断等ニ任ゼシム。
- (3) 廈門地區部隊中ノ水上撃撃部隊ヲ以テ廈門島、金門島附近水域ノ

0749

警備及港務一隊ニ任ゼシム

(四) 前進部隊中 南島地區部隊一部 南澎高島灯台 (准士官

一名) 電測班 見張機六十七名 (東提島灯台 (見張機兵四名及閩南

警備軍若干) 烏拉與灯台 (見張機兵四名及福建和平救國軍若

干) 馬祖島見張所 (見張機兵四名及福建和平救國軍總司令部

所在) 東引島灯台 (見張機兵四名及福建和平救國軍若若干)

其ノ與灯台 (見張機兵五名) 確保班 見張機兵四名 敵機

動部隊味者 通航艦船 報告 陸空警 報其他 遠報ニ當ラシム

其他 灯台 八張 逸舟 率元 福建和平救國軍ヲシテ 準備セシメツアリ

(可圖第六参照)

但シ大担與灯台 閩南警備軍ヲシテ 準備セシメツアリ

(五) 飛行機隊ハ所要ニ應ジ 海上交通保護及對潛索敵攻撃ニ 茲ニ敵軍ニ對シ

地ノ爆撃ニ當ラシム

(四) 戰局對策

比島方面決戰ニ連シ 戰機漸ク南支那海ニ移リ 厦門島金門島其他各

島嶼ハ重要據点トシテ 兵ニ益々島辺ノ防備ヲ設ク 強化シ 圖リ 既ニ南

ニ着手シ 軍官兵一體トナリ之ガ促進ニ努メ 着々強化シツアリ 以テ 艦敵ニ對

處セントス
ハ作戦指導

(一)官房機密第一二六九番電ニ依リ訓令作業

十月二十九日敵潜前部ヲ拘提シ沈没状況調査成功ヲ領キ鋭意作業ノ促進ヲ努メ敵潜沈没状況ハ確認セルモ氣圧配置冬季標進型トナリ季節節風ノ障害大ナル為機密書類引提ノ遅延ニ至ラズ、尚ヨリ間敵機B 29、R 25ノ来襲ニ四ツ一應本作業ヲ打切シトナリ作業隊ハ十月二十六日厦門ニ歸投セリ

(二)詳細機密厦門方面特別根據地隊第四號訓令作業實施報告冬(照)

(三)大興米兵奇襲戦

鼓浪嶼對岸亞細亞スノ附近ノ敵ハ屢々望遠鏡寫真機等ヲ以テ厦門鼓浪嶼方面偵察シ時々數名大興ニ進出偵察ヲ試ミ、ツラリテ共々ラシキモノ混入スルヲ認メ元々依リ十一月三十一日〇四一陸戰隊ニ分隊(十三名)ヲ大興ニ穩密上陸潜伏セシメ今日一三四五厦鼓嶼方面偵察米島セル米水兵一名及支那陸兵一名ヲ奇襲シ捕獲シ尚航空機用寫真機共々他ヲ押收シ今日全興ニ搬收セリ

(詳細)厦根機密第一號五(厦門方面部隊戰斗詳報)第一號冬(照)

(三)對空戰斗

(一)十月三十一日〇六〇P 38型機高度約六〇〇米ニ厦門ニ侵入偵察後一〇五東空隊去ル

0751

(2) 十二月四日三四・P38一機高度約六〇〇米ニテ厦門ニ襲撃。厦門島及周辺ヲ偵察。一三四北西方ニ飛去ス。

一七三三P40型二機高度約八〇〇米ニテ北方ヨリ高崎飛行場ニ侵襲。銃爆撃ヲ行ヒタルモ我々が及撃ニヨリ高度ヲ下ゲテ、北西方ニ遁走。一七三三司令部地區ニ侵入シ在港中ノ機帆船ヲ銃撃セルモ我々が及撃シ一七三五北方ニ遁走セシメタリ。

(3) 十二月十九日二五P40型二機一機浪興北端ヨリ厦門港内ニ侵襲。建泰ドック附近ニ銃撃ヲ行ヒタルモ我々が及撃ニ依リ北走シ高崎飛行場ニ高度約三〇〇米ニテ侵入銃撃ス。

我之ニ應戦シ其一機ヲ對岸集美後方ニ撃墜。一機ヲ撃破北西方ニ遁走セシメタリ。我方被害ナシ。

(4) 十二月二十日。九四六B三九型一機對岸亞細亞タンク方向ヨリ厦門ニ襲撃偵察。後東方ニ飛去ス。

(5) 十二月二十四日。二四B29型一機烏坵島ニ襲撃附近碇泊中ノ商隊攻撃備能名振丸ニ爆弾投下(二発)シ遁走セリ。被害ナシ。

(6) 十二月二十五日。一七三三B25型二機烏坵島ニ襲撃。灯台及在泊中ノ名振丸ニ襲撃。名振丸ヲ銃爆撃ス。名振丸に號春日丸直ニ應戦。及撃之ヲ遁走。

0752

セシメアリ (投下爆弾二発)

戦果 一機撃破

被害 戦死兵一、軽傷兵一、名振丸機銃被弾多数 (但シテ戦死兵一、支障ナシ)

四對潜哨戒

(1) 十一月三日。水偵四號機基地発進。三船団、厦門牛山島間、前路哨戒ヲ実施。一三。歸航。敵潜ヲ認メズ

(2) 十一月六日。水偵三號機基地発進。二船団、護衛ニ任ジ東提島ヨリ接岸航路ノ哨戒ヲ実施。一三。歸航。敵潜ヲ認メズ

(3) 十一月十日。九三。水偵三号機基地発進。九。二船団ノ前路哨戒ニ任ジ東提島ヲ中心トスル。三。漂圏内ノ哨戒ヲ実施。一三。歸航。敵潜ヲ認メズ

(4) 十一月十三日。七三。水偵二號機基地発進。二六船団、前路哨戒ヲ實施。一三。帰航。敵潜ヲ認メズ

(5) 十一月三十日。一三。水偵二号機基地発進。一。四船団、前路哨戒ノ實施。一三。歸航。敵潜ヲ認メズ

(6) 十二月三日。一三。水偵二號機基地發進。一。九。一船團ノ前路哨戒ニ任ジ鎮海南ヨリ蓮花峯南ニ至ル哨戒ヲ實施。歸航。一。行動海面敵潜ヲ認メズ

(2) 戒。克。臨。核

0753

本期間水上警備隊ニ依ル式充(漁船)停檢数次通ニシテ異状ヲ認メズ
 大型式充一〇五 中型式充二九七 小型式充五六八 計九七〇

(六) 教育訓練

艦隊教育方針ニ基キ極メテ順調ニ進捗シツアリ、敵機未襲ニ対處ニテ特ニ
 對空戰鬥教練ニ重点ヲ置キ、常時對空警戒式配置ニ就カシメ、機宜ニ及
 復訓練ヲ實施、尚現情勢ニ鑑ミ海上方面敵侵襲ニ對應スベク防衛隊
 ヲ指導シ軍民一体トナリ、邊警ヲ教練ヲ實施、實績ヲアゲツアリ、且月八
 日、夜間訓練日誌二月一回、警備演習日ヲ定メ、夜間演習ヲ勵行スル外
 武技体技ヲ行ヒテ技柄、向一體ヲ鍊成シ、氣ヲ振作ラ図リツアリ、

(七) 施設

- (1) 溪頭社十五糎砲据付掩体構築
- (2) 水際陣地構築
- (3) 野砲陣地野砲掩体壕構築
- (4) 香山十五糎砲揚陸運搬及据付
- (5) 偽砲台構築
- (6) 防空壕掘鑿

(二) 附屬艦船艇行動

日	山	警	第	福	名	大	南	春	長	第	第
丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸
	山	備	十	大	振	角	七	日	實	十	一
	丸	號	號	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸

二人員ノ現状
 (1) 現員官氏名(十二月一日現在)

三	三	二	九	門	門	門	門	雄	門	以	門	門	門
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

職	主	務	官	氏	名	記	事
司令官			中將	原田	清一		
參謀長			中佐	関	勅		
參謀			少佐	沼井	昭		
參謀			少佐	田中	善次		
隊附			大尉	石橋	熊八郎		
隊附			同	森	秀一		
隊附			中尉	河合	米三郎		
隊附			同	玉井	義盛		
隊附			同	八木	福次郎		
隊附			同	宮越	林		

0756